

みわ陽子議員の討論

令和5年度江南市水道事業会計予算について

水道事業会計は令和元年度に策定した「水道事業経営戦略」により、令和2年度に18,1%もの大幅値上げを行いました。

この値上げにより、内部留保金が増え、令和3年度決算時には経営戦略で予定していた11億8000万円を1億5000万円も上回る13億3000万円もの留保金が積みあがっていました。

令和4年度は配水場の監視装置の更新や配水ポンプの増設などがあり、支出が例年よりふえましたが、令和5年度の内部留保の見込みが11億円程度です。これが経営戦略時の額と同程度で料金の値下げや補助はできないという理由でした。

しかし、そもそもこの経営戦略が作られた令和元年はコロナ前であり、コロナによって社会がどう変わるか、ましてや今のような急激な物価高になることなど予想もできない時に作られたものです。

そして、内部留保金の必要額が7億円から10億円に引き上げられたのは熊本地震の後、災害に備えてです。

長引くコロナ禍とこの急激な物価高、電気代の請求にビックリし、卵などの値上がりに驚き、今ほとんどの市民がもうこれ以上節約するところがないと悲鳴を上げています。市民や事業者の声を本当に聞くなれば、今は災害級の事態です。

本来国が消費税を5%に減税するなど、根本的な対策をすべきですが、有効な物価対策をしていません。そこで、まず市民に一番近い市が今ためるのではなく、内部留保金は7億円程度になっても今すべての市民への支援となる水道料金の基本料金程度の補助をすべきであると考えます。